

公衆衛生部門

受賞者： ひさみち 久道 しげる 茂 (78歳)

公益財団法人宮城県対がん協会 会長



1981年に東北大学医学部公衆衛生学講座の教授に就任。従来医学生への教育プログラムにはなかったEBM (Evidence Based Medicine)、臨床疫学、医学判断学 (MDM) などを全国に先がけて教育科目に導入し、公衆衛生教育の発展普及に寄与した。1987年に公衆衛生審議会専門委員に就任して以来、多くの専門委員を歴任し、厚生労働省の進める行政施策の審議に加わった。特に公衆衛生審議会会長、厚生科学審議会会長の在任中は多くの課題解決に尽力し、「結核緊急事態宣言」「健康日本21」「がん対策推進基本計画」を提言、答申作成に務めた。特に生活習慣病に関する厚生労働省の各種委員会の多くに参画し、国の重要な政策決定に関与した。

がん検診の評価についての研究を続けた成果として「胃集団検診効果の評価に関する研究」は、他のがん検診評価のモデルとなった。最終的には胃以外に、子宮、肺、乳、大腸、前立腺などについてEBMの手法を用いた有効性評価を行い、日本のがん検診の方向性に多大な指針を与えた。この研究成果は国際的にも評価を受け、WHOが主催する会議への出席やUICC (国際対がん連合) 主催のシンポジウム等で講演を行った。さらに、日本と同様に胃がんでの死亡率が高い中国、韓国、ロシア、中南米諸国において胃がん撲滅のためにJICAを通じた指導を重ねた。

宮城県をはじめとする地方行政への貢献は、教授在職中から各種審議会や協議会等の委員として参画し、重要な医療保健福祉にかかわる地方行政施策の意思決定にかかわった。現在では宮城県がん対策推進協議会会長、宮城県医師育成機構理事長としても活躍している。

推薦者： 高久 史磨 日本医学会 会長